ペイントソフト（お絵かきソフト）の機能と使い方

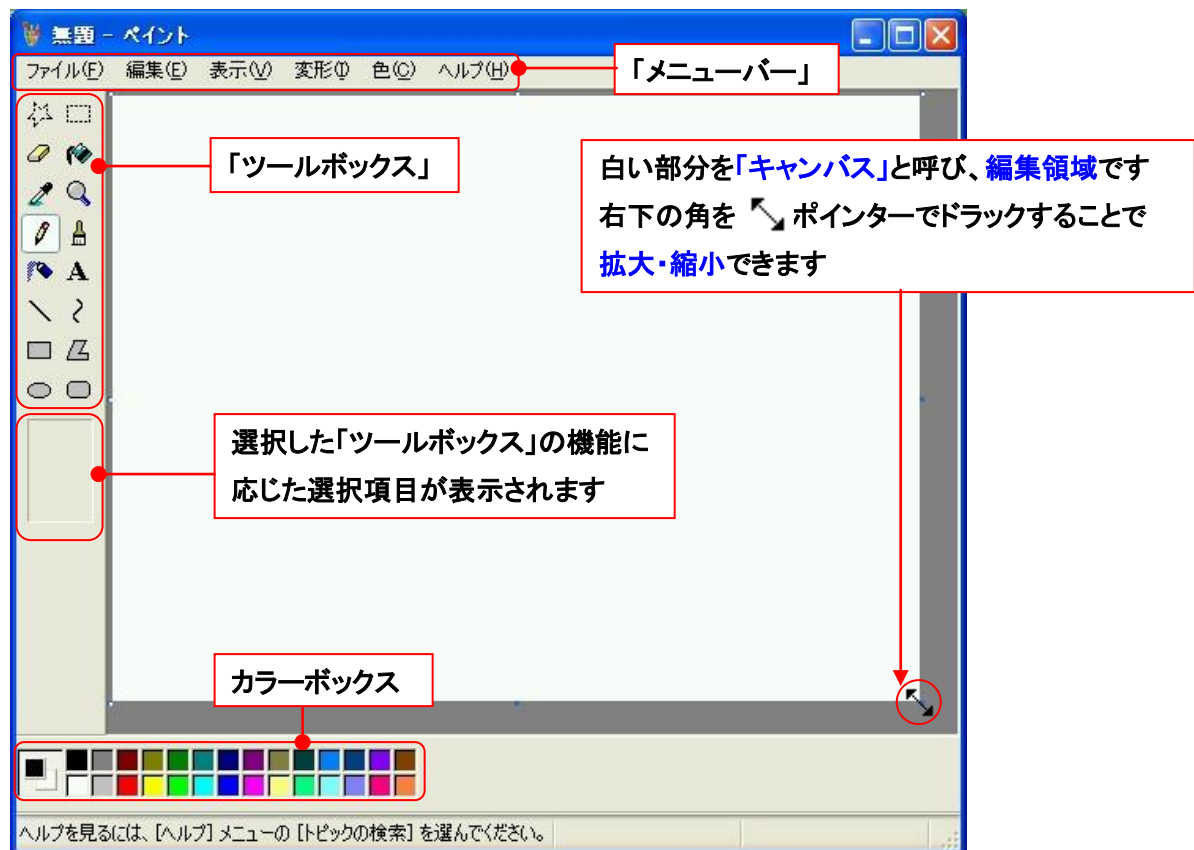
ペイントソフトは、Windows パソコンには必ずインストールされています。取扱説明書は付属されていませんので使い方がよくわからないかと考え、機能と使い方をまとめてみました。

必ずしも、正確でないかもしれませんが、その点はご容赦ください。

全体的には、必ずしも使い勝手のよいソフトではありませんが、工夫すると便利に使うことも出来ますので勉強しましょう

1・起動順序

・「スタート」・・「すべてのプログラム(P)」・・「アクセサリー」・・「ペイント」で起動します。

2・起動画面と各部の名称

3・メニューバーの機能

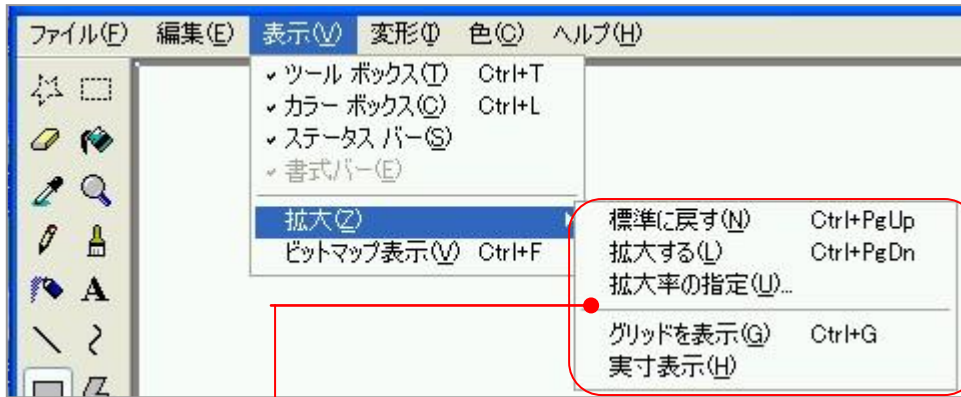
3・1・「ファイル(F)」・・・ワードなどと同じですので省略

＊但し、編集した図形・画像（イラスト）等を保存する場合、初期では、キャンバスを含めた、画像「bmp（ビットマップ）形式」で保存されます。「JPG（JPEG）形式」で保存すると、ペイントソフトでの再編集が出来なくなりますので注意ください。

実際に試みた結果では、「GIF」・「TIFF（TIF）」・「PNG」形式で保存して結果では、再編集は可能でした

3・2・「編集(E)」・・・ワードなどと同じですので省略

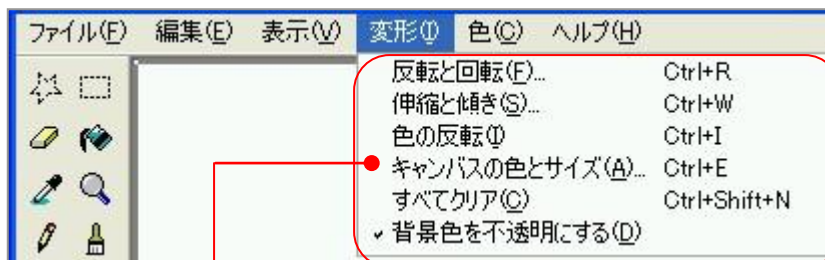
＊但し、ワードと異なり、独立した「元に戻す」ボタンはありません、「編集(E)」で開く画面より、「元に戻す(U)」を使いますが、3回程しか戻れませんので、間違いに気づいたらすぐに戻りましょう。

3・3・「表示(V)」・・・主な機能

「標準に戻す(N)」・・・・・拡大表示から元に戻す

「拡大する(L)」・・・・・・・・400%に拡大表示されます

「拡大率の指定(U)」・・・200～800%の拡大表示が選択できます

「グリッド線の表示(G)」・キャンバスにグリッド線（升目を表示・・方眼紙のような表示）を表示

3・4・「変形(I)」・・・主な機能

編集図形（画像）に対して次のことが出来ます

「反転と回転(F)」・・・・・・・・・「水平（左右）」・「垂直（上下）」方向への反転

「90」・「180」・「270」度の回転角度の選択

「伸縮と傾き(S)」・・・・・・・・・「水平（横方向）」・「垂直（縦方向）」への伸縮（拡大/縮小）

※ワードのようにドラックしての伸縮（拡大/縮小）も可能ですが、縦横比が変化してうまくいきません

「水平（横方向）」・「垂直（縦方向）」への傾き（変形・矩形にする）

※上記 2 点の機能は、そのままでは、編集中のすべての図形(画像)に適用されてしまいますので個々の図形（画像）単独に適用する場合は、適用する図形（画像）を次項の「ツールボックスの機能」の「選択」機能で選択しておく必要があります。

「すべてクリア（C）」・・・・・・・編集中のすべての図形（画像）をクリア（削除）します

3・5・「色(C)」・・・「カラーボックス」中に表示されていない色を選択します・・・「色の編集(P)」より、

「色の作成(D)」

この機能は、「カラーボックス」のどれかの色をダブルクリックすることでも呼び出せます

このマークをドラッグし、「色合い」・「鮮やかさ」を調整・選択

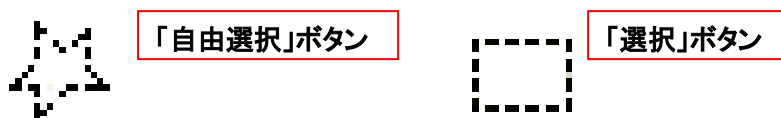
ドラッグし、「明るさ」を調整・選択
「作成した色」を確認

「OK」

「色の追加(A)」

「カラーボックス」のここが、「作成した色」に変化します

4・ツールボックスの機能

4・1・「選択」ボタン・・・・「自由選択」ボタン使い方がよくわかりませんので省略します。

図形(画像)を移動・コピー・拡大・縮小等をする場合に対象となる図形(画像)をドラッグ、範囲選択します
複数箇所の選択は出来ませんし、図形(画像)同士が重なり合った部分を分離しての選択も出来ません
また、四角形での選択しか出来ませんので、キャンバスの一部が必ず選択されてしまいます。これを防ぐ方法はないようです。
移動等をして、他の図形(画像)と重ね合わせた場合、順序を入れ替える機能はありませんので、下の図形に一部が隠れてしまいます。このような時は、下記の手順でキャンバスの部分の色を透明にして対処します。

4･1･1･選択されたキャンバスの一部の色を透明にする

「自由選択」･「選択」ボタンを使用しますと、「ツールボックス」の下部にキャンバス部分を「不透明（上）」（初期設定）にするか、「透明（下）」にするかのボタンが表示されますので、範囲選択後「透明(下)」を選択し、「カラーボックス」の「キャンバスの色」と同色のボタンを「右クリック」しますと、キャンバスの部分の色が「透明」になります。

「キャンバスの色」を右クリック

「不透明(上)」
「透明（下）」

4･2･「消しゴム/カラー消しゴム」ボタン

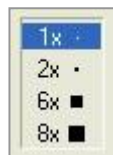
描いた線や塗りつぶした色を消す（透明にするのではなく白く塗りつぶす）

4･3･「塗りつぶし」ボタン

線で囲まれた範囲を指定の色で塗りつぶす

4･4･「色の選択」ボタン

「塗りつぶし」の色を「編集領域で使われた」色に変更する
「色の編集」で作成した色が、編集領域に使われていれば、その色をクリックすると、変更されますので、この機能を使うと、色の再編集の必要がなくなります

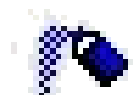
4･5･「拡大･縮小」ボタン

キャンバスと編集図形（画像）の拡大･縮小
拡大率は、左図（右側）より、選択（表示？x＝？00%です･8x＝800%）

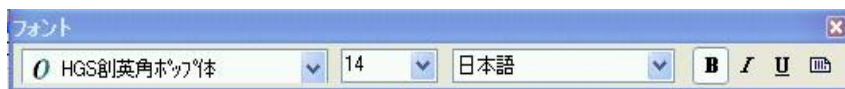
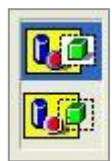
4･6･「鉛筆」ボタン

フリーハンドで線が描けます（線の太さは変更選択出来ません）

4･7･「ブラシ」ボタン

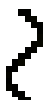
「鉛筆」ボタンより、太い線が描けます
4つの形状とそれぞれ3種類の大きさあり、計12種類選択出来ます
狭い範囲の塗りつぶしにも適しています

4・8・「エアーブラシ」ボタン

スプレーで吹き付けたような効果が得られる塗りつぶし機能
大きさは3種類選択できます

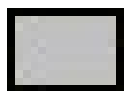
4・9・「テキスト」ボタン

図形の上に文字を重ね合わせることが出来ます。(ワードのテキストボックス機能と同じです)
「テキストボタン」を選択後、編集領域をドラッグして入力範囲を作成、書式バー(上図右)が表示されますので、選択設定後(設定項目は省略)、文字を入力します。
入力範囲の中を「不透明」する場合は上図中の「上」のボタンを選択、「透明」にする場合は「下」のボタンを選択します。文字の色は、「カラーボックス」(下図)の色が適用されます

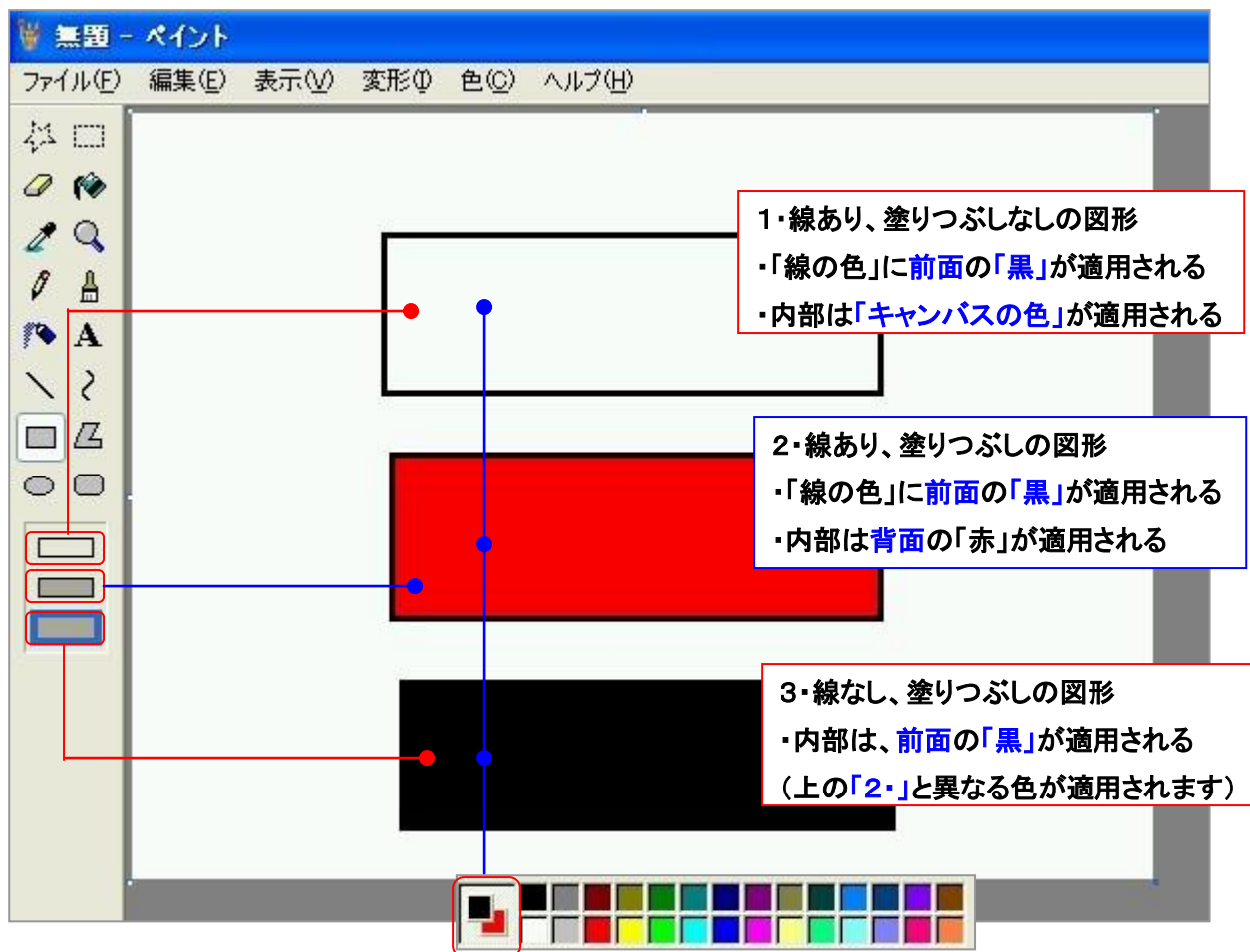
4・10・「直線」ボタン

左図右のボタンより、「線の太さ」を選択しドラッグして描きます
「Shift」キーを併用しますと、まっすぐ描けます

4・11・「曲線」ボタン・・・・・最初から曲線は描けません・・・まず直線を描きます。

左図右のボタンより、「線の太さ」を選択しドラッグして描きます
「Shift」キーを併用しますと、まっすぐ描けます

直線が描けたら、線上から頂点まで、ドラッグします。頂点は 2 箇所まで作成できますが、2 箇所目の頂点を作成するときに 1 箇所目の頂点位置が移動してしまいますので、なかなか難しいです。

4・12・「四角形」・「多角形」・「楕円」・「角丸四角形」ボタン

周囲の「線の太さ」は、「線」・「曲線」で設定される太さになります
「多角形」は方向を変える位置(角)では、左ボタンを離します。方向を変えたら再びドラッグし描きます。「線の色」・「塗りつぶしの色」は、作成中は「黒い線」で描かれ、「図形が完成した時点」で適用されます
「四角形」・「楕円」・「角丸四角形」は「Shift」キーを併用すると「真四角」・「真ん丸」になります

5・図形作成時の「ツールボックス」と「カラーボックス」の関係

無題 - ペイント

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 変形(I) 色(C) ヘルプ(H)

1・線あり、塗りつぶしなしの図形
・「線の色」に前面の「黒」が適用される
・内部は「キャンバスの色」が適用される

2・線あり、塗りつぶしの図形
・「線の色」に前面の「黒」が適用される
・内部は背面の「赤」が適用される

3・線なし、塗りつぶしの図形
・内部は、前面の「黒」が適用される
（上の「2・」と異なる色が適用されます）

6・カラーボックスの色の変更

このソフトを使用する時の注意は、「ツールの機能（ボタン）」・「色」・「線の太さ」等、一度選択しますと、「選択・変更」しない限り、いつまでも、保持されますので、異なる編集に移るときに確認をしてください。